

人権作文 代表作品

1月号の「人権標語」に続き、今月号では「人権作文」の代表作品を紹介いたします。

(敬称略)

友達の大切さ

青柳小学校六年 酒井 麗奈

私は、友達のが大好きです。友達がいるから毎日楽しい生活が過ごれているんだと思います。二年生の時から、友達と一緒に休み時間によくおしゃべりをします。うれしいときは一緒に喜び合ったり、悲しいときは一緒に悲しんだり、色々な時間を共に過ごしました。私が落ち込んでいるときは、話を聞いてあげましてくれます。友達は私が困っているとき、協力して助けてくれました。

ある日、休み時間に友達と話しているとき、人の悪口をお互いに言い合ってしまったことがあります。その時、

「あの子って、やだよね。」

という友達の言葉が、

「確かに。」

と行ってしまいました。そして、その悪口が本人に聞こえてしまいました。それから、その子とはうまく関われなくなってしまいました。そして、先生

います。悩んでいる友達が一人でもいたら相談にのってあげてくれることを心がけています。私は、共に笑い合ったり、悲しみ合ったり、お互いを大切にしたり、支え合ったり、自分の気持ちを考えてくれる人が本当の友達だとも強く思います。私も友達にとってそういう存在になりたいです。

私は、悩んでいる友達が一人でもいたら相談に乗ってあげようと思います。私にとつての友達は、喜び合い、悲しみ合い、けんかをし合い、相談し合える存在です。自分が話す言葉に気を付けて、三つの心がけを守り、友達から信頼される存在になっていけるようがんばっていきます。また、誰にでも手を差し伸べられるような行動を積み重ねたいです。

心の中にある差別

神川中学校三年 浅見 駿

僕は、障害のある人に対して、差別や偏見の目で見るのは絶対に良くないと思います。人はそれぞれ個性を持っていて、見た目が違うのは当たり前です。

2年前、オリンピック、パラリンピックが開催されました。パラリンピックでは、足が義足の人や手が無い人、手足が不自由な人など様々な障害を持った人が出場しています。どの選手も努力をして、人の倍以上の練習をして、パラリンピックを目指しているので、すごいなあと思います。テレビを観ていました。

の力をかりて話し合うことになりました。先生は、

「その小さな一言が悪口となって、相手の心が傷ついてしまうよ。」

と、言っていました。私は間違ったことをしたと気づき、『ちゃんとその子にあやまろう。』と思い、謝ることができました。

「ごめん」

と、その子は言ってくれました。それから、私は自分の発言にはとても気を付けようと思い、二度と『人の悪口を絶対に言わない』と心にちかいました。

この経験を振り返って、私は友達を大切にすることで意識していくことを三つ決めました。一つ目は、『いつも友達の気持ちを考えること』です。二つ目は、『友達が困っていたら、お互いに助け合うこと』です。三つ目は、『友達が悩んでいたら相談にのってあげること』です。これらの三つのことを心がけよう決めました。そして、これから色々な人と関わっていく時に絶対に気をつけていくことも考えました。それは『心で思ったことを言葉にするときに、その言葉は相手を傷つける言葉ではないか、一度考えてみる』ということです。

六年生になりました。下級生に見本を見せることができる人になりたいと思っています。また、下級生に優しくすることも心がけたいと思っています。六年生は、委員会やクラブ活動などでリーダーとなる立場です。みんなとの接し方も考えて、自分が言うことが人を傷つけないかをいつも考えて、良い思い出をつくれるように生活していきたいと思っています。昔の私は、『どうせ聞かえてないでしょ。言っても平気でしょ。』と思っていました。その頃のことを思い出してみると『私は何を考えているんだ』という気持ちになります。今の私は、友達と楽しく過ごることができて

僕は、陸上競技部に所属しています。手足があつて動かすこともできません。今までそれが当たり前だと思っていました。きつい事やつらい時に、現実から逃げようとした時もありました。だけど、パラリンピックの選手の姿を見て、夢をあきらめないことの大切さや、努力を惜しまないことへの素晴らしさを感じ、今まで以上がんばりたいと思えました。だけど、その気持ちと同時に、「かわいそう」だとも思ったのも事実です。手足が不自由な事で不便な事もたくさんあると思うし、僕には簡単に出来る事でも障害がある人には時間がかかるかもしれないと思ったからです。その「かわいそう」と思う気持ちこそが偏見につながるかもしれない。それは気持ちの考え次第でなくすことが出来ると思います。「かわいそう」と思うのではなく、「思いやり」の心に変えていきたいです。

人は、うれしい、楽しい、悲しい、悔しいなどの感情があります。それは、体を動かす事が出来なくても、話す事が出来なくても、誰もが抱く感情で、感情は見た目は関係ないのです。一人一人の個性があつて、お互い違いがあるからこそ、友達になれたり、仲間になって色々な事が出来るのだと思います。

今、差別で苦しむ人を少しでも減らすために、僕に出来る事は、いつも周りにいる一人一人の気持ちを考えてそれぞれを認めること。そうすることで、人に対する意識を変えていき、自分の心の中にある差別をなくしていく。きっとそれが、誰かの人権を守ることにつながると、僕は思います。